

会報冊子版の記事 目次

1. 第11期総会と特別講演記録

第11期総会（総会資料は、SAAJ サイトに原案公開、および本冊子版とあわせ、別冊として配布）

特別講演「システム監査／管理基準のISO化推進状況」（力 利則氏）

2. めだか（システム監査人のコラム）【 会報 Award 受賞作品のご紹介 】

3. 月例研究会、セミナー開催報告、支部報告

量子コンピュータの概要と研究・開発の状況（第169回月例研参加記録）

4. 事務局より連絡（住所変更）、会報 Award 受賞者について

第11期通常総会報告と特別講演

日本システム監査人協会の第11期通常総会は、平成24年2月24日（金）、100名の会員が参加して東京港区の機械振興会館会議室において開催されました。総会に続き、日本が提案するISO基準として話題となっている「システム監査／管理基準のISO化推進状況」について特別講演会が開催されました。講演の要旨は後述します。



（新会長 沼野さん、新事務局長 仲さん）



（議長 松枝さん）

■ 第11期通常総会の概要

通常総会は、仲理事の総合司会で開始され、松枝副会長を議長に選任して報告および審議が行われました。

総会の議事は、平成23年度事業報告、同会計報告、平成24年度事業計画、同年度予算について、鈴木前会長、沼野会長、会計担当安部理事から報告、および説明が行われました。ついで、北海道支部、東北支部、北信越支部、中部支部、近畿支部、中四国支部、九州支部の各支部長および代理者から、各支部の活動実績と次年度の計画について補足説明がなされました。

今回は震災による事業規模の見直しや、定年退職による会員の退会者数が増加。予定されたシステム監査普及事業の多くが中止、および夏の計画停電による会場確保の見直し等もあり、当初の開催計画、規模を縮小して実施せざるを得なくなった。一方で、経費の節減に注力していることが報告されました。新年度の活動計画および予算のなかでは、事務所スペースを半減し、また事務所経費等を圧縮して、活動基盤の改善にむけた取り組みを実現することが大きな課題です。

官民あげての事業見直しや第三者委員会に客観的な評価の役割も増しており、システム監査の普及を加速させる土俵はあります。しかしながら、当協会の活動では、会員の退職に伴う退会が目立ちます。

事業仕分けや課題解決の基本となる IT 活用、情報システムを有効に活用するためのシステム監査を、さらには、インターネットを活用したビジネスやクラウドサービスを利用したシステム監査をどのように定着させていくか、ここ数年、精一杯に踏ん張っていきたいという思いを強くした総会の内容でした。参加会員からの質問に対する応答の後、議案は採決され、議案の通り可決されました。

総会で報告された平成 23 年度事業報告、同会計報告、平成 24 年度事業計画、同年度予算は、総会資料をご確認ください。

総会に引き続き、SAAJ 会報アワードの受賞者、6 名の方のお名前を公表し、記念品を授与しました。初めての試みでしたが、ひとつの活動成果を報告の形で記録し、またその中から有用、タイムリーな情報提供のあったものを称えるという方法に価値があると思われまます。

特別講演会が開催され、今回は「システム監査／管理基準の ISO 化推進状況」について、公認システム監査人 力 利則 氏にご講演いただきました。 (報告 竹下)

■ 特別講演会の概要



(ご講演中の力さん)

(略歴)

力 利則 様。NEC フィールディング株式会社 経営システム部 経営システム部長。2010 年 8 月まで、NEC の内部監査部門に所属。公認システム監査人 (CSA)。日本システム監査人協会副会長、理事。

演題 「システム監査／管理基準の ISO 化推進状況」

講演者 公認システム監査人 力 利則 氏

講演目次と要旨

- 目次 1. はじめに 2. 今までの経緯
3. ISO/IEC 30120 WD IT Audit 4. まとめとお願い

要旨

1. はじめに

システム管理基準、システム監査基準を ISO 化する、という動きが、いよいよ、ISO 加盟国の参加者によって議論されるという舞台上、急ピッチで調整が進んでいます。

■はじめに

ISO/IEC JTC1/SC7/WG40とは(1/2)

1. ISO (International Organization for Standardization) 国際標準化機構
2. IEC (International Electrotechnical Commission) 国際電気標準会議
3. ISO/IEC JTC 1は、ISOとIECの第1合同技術委員会 (Joint Technical Committee 1) のこと。情報技術 (IT) 分野の標準化を行うための組織である。1987年に設立。
4. (2009年、エネルギーの効率化と再利用に関する規格の策定を目指し、ISO/IEC JTC 2が設立された。)
5. 分野毎に30以上(活動中は約17)のSub Committee(SC)に分かれ、SCは、さらにWorking Group(WG)などに分かれる。
6. 各SC配下WGは、ISO/IEC JTC 1/SC7/WG40の様に表記。
7. JTC1には、1ヶ国につき1組織のみの参加が認められ、日本からの参加組織は、日本工業標準調査会 (JISC)。JISCからの委任を受け規格の審議を担っているのは主に一般社団法人 情報処理学会 情報規格調査会が務める。

SAAJ第11期総会特別講演

3

ISO (International Organization for Standardization) は、ご承知のように電気分野を除く工業分野の国際的な標準である国際規格を策定するための組織です。ISO は国際的な活動をする組織ですが、民間の非政府組織です。だから、参加者が自弁して議論する場です。

したがって、SAAJ から参加する場合にも、提案者でありながら、日本を代表する立場でありながら、出張旅費をどのように工面するか、大きな課題です。

ISO/IEC JTC1/SC7/WG40とは(2/2)

SC7 : ソフトウェア技術 Software and systems engineering

- WG1A → WG40:
IT Governance (IT-Auditも含む)
- WG6: 評価とメトリクス
- WG7: ライフサイクル管理
- WG10: プロセスアセスメント
- WG21: ソフトウェア資産管理 など

SC17: カード及び個人識別 SC32: データ管理及び交換
SC25: 情報機器間の相互接続 SC35: ユーザインタフェース
SC27: セキュリティ技術 など

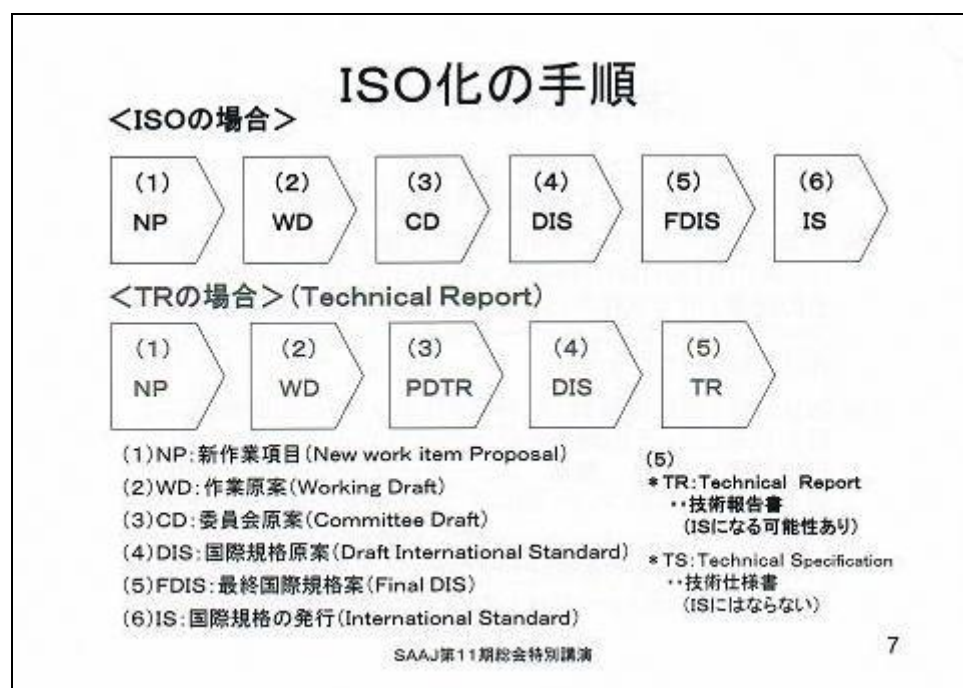
SAAJ第11期総会特別講演

4

今回の議論の場は、ISO と IEC のジョイントコミティ、JTC 1 では、世界の電気電子機器の開発、運用に関する標準化を議論する検討チームです。

この中で、IT 開発の標準化、活用評価に関する基準、あるいは今回の IT ガバナンスに関する議論が行われています。新参ものの IT-Audit は WG40 で議論されることになりました。

後述のように、日本は提案者であり、また、今回提案のまとめ役 (エディター) として活動していきますが、ISO の規則にそって、国際投票で決められます。日本には、提案するという経験が不足しておりますので、どのように各国の参加者の理解と協力を得るかが今後の課題です。会議への参加者が、システム監査の経験者というわけでもなく、IT の技術やアプリケーションが強いとかいうわけでもなく、そのような参加者を相手に国際会議の場でのネゴシエータの役割や演技方を学ばなければなりません。



どのように国際基準が決められていくか、概要を示したものが左の図です。

(参考：会報 125 号)

今回の提案は、IS（国際規格）ではなく、TR（技術仕様書）として公開される見通しが強いのですが、その理由は管理基準のように詳細な具体例を示すものは TR になる場合が多いのです。

国際規格は、より抽象化され標準化されていくので、何の定義なのか判断が難しい場面も多いのです。

2. 今までの経緯

■ 今までの経緯

ISO/IEC JTC1/SC7/WG40 新潟会議 参加報告

- 開催場所：新潟、日本
- 開催期間：2010年5月23日 - 24日
- 参加国数／出席者数：数カ国
 ニュージーランド(1)、韓国(2)、
 日本(3: 平野 (IPA)、原田 (情報セキュリティ大学院大学) 力 (NEC))
- 日本からの提案
 「Proposal for Information Systems Audit Standard」
- 結論
 日本からの提案に基づき、IT-AUDITのNWIP活動をスタート

これまで、日本の新潟、パリ、ロンドンで会議の場がもたれました。今年は南米での開催が予定されています。

提案側としての基準案の内容も充実してきました。

これも、SAAJ 基準研のメンバーにいろいろな立場からの意見を頂き、議論を重ねているからです。

ご協力いただいている皆様、これから参加いただく方に、この場を借りて感謝の気持ちを表します。

また、SAAJ 出版物の原稿料を旅費に拠出いただき、また会員有志ボランティアとして多くの方のご協力をいただいております。

ISO 化の道は容易ではないことがわかっていますが、せつかくの提案機会があるのなら、日本の企業が体験したシステム監査のノウハウを規格やガイドラインとして、世界に貢献できるわけです。

3. ISO/IEC 30120 WD IT Audit

現在検討中の案は、ISO/IEC 30120 WD IT Audit という符番がつけられていて、先ほどのチャート(p7)で言う NP から WD のステップに進んだばかりです。IT ガバナンスの基準である ISO/IEC38500 との役割の違いを調整しました。

さらに、IT Audit が目指すところは、品質や環境、情報セキュリティなどのマネジメントシステムの監査ではありません。IT を活用する場面、これから活用しようとする場面すべてが対象です。

ISO 化の原案は添付の英文で書かれたものです。主な目次項目とタイトルを紹介しますが、ISO の原案作成ルールにもとづいて作成しています。項目の数も多く時間も限られているため、今回は具体的な細目までは説明の時間もないため、省略させていただきます。

4. お願い

ISO/IEC 30120 WD IT Audit そのものは、まだ一般には、未公開の資料です。

検討メンバーに参加いただければ、現在はずでに WD の段階ですが、起案から参加できます。今後は、各国からいろいろな提案や修正要求がコメントされます。それらをどう（採用、修正案を作成して採用、見送りなど）判断していくか、という地道な作業がまっています。ぜひ、会員の皆さんの意見を伺いたいのです。

日本が提案する、システム管理、システム監査に関する原案の検討会に参加できるんです。

続きは研究会で検討していきたいのでぜひ、検討メンバーとして参加いただくよう、お願いします。

(感想)

講演では、英文で書かれた ISO 化の原案が示され、主な目次項目とタイトルが紹介されました。項目の数も多く時間も限られているため、具体的な細目までは説明されませんでした。今後は、評価の母体となっている SAAJ 監査基準研究会や CSA フォーラムで検討を継続することになるでしょう。詳細は、他の ISO 基準との関係を、より具体的にして調整が進んでからでも十分だと思います。その懸念事項の一つは次のポイントでしょう。

講演でも触れられた ISO19011は、監査人のための監査手法を定めたルールです。情報セキュリティの分野では、監査人による監査の手法は、ISO19011に基づき、情報セキュリティに特有な要件を加味した ISO27006として示されています。第三者認証機関が公平な審査をするために、公平で標準的な監査方法であることが保証されるよう審査機関のための制度として運用されています。企業の規模や業種、監査する審査員の経験や興味で、判断が異なっては困るからです。この 19011 という Auditor(監査人)のための監査基準は、ISO9001(品質マネジメントシステム)、ISO14001(環境マネジメントシステム)、ISO20000(サービスサポートシステム)などで共通に準拠される枠組みです。

このなかで、監査人は、計画作成から、監査報告、フォローアップなど一連の監査プロセスの中で、コンサルティングとみなされるような助言や行動は禁止されているのです。あくまでも、それぞれの監査基準と比較することが国際的に合意された Audit(監査)の定義なのです。ISO の一部基準としてならぶ、ということは、この原則に沿って運用するということです。そこですべての IT 活用場面を対象とする IT Audit は、ISO19011とは守備範囲が違う(より広い)ので、Scope に“支援する”(to support the evaluation of governance of IT based on the principles of ISO/IEC 38500)と表現するのは、その苦心の表れでしょう。だから、その監査基準である、ISO/IEC 30120 WD IT Audit のなかに、起案者として主張したいことをできるだけ反映させておくことが重要なのです。

(報告者 竹下和孝)

日本システム監査人協会の会長就任にあたって

特定非営利活動法人 日本システム監査人協会
会長 沼野伸生

今般、鈴木信夫前会長から引継ぎ、特定非営利活動法人日本システム監査人協会会長に就任しました、沼野伸生です。

任意団体として昭和62年に発足以来、二十数年の歴史、900人を超える個人会員、34社の法人会員を擁する協会の会長職を引継ぐことになり、責任の重さを強く感じます。皆様のご協力、ご支援をどうぞよろしくお願い致します。

さて、世の中は、クラウド・コンピューティングなど、企業・組織のIT利活用形態の変化は勿論のこと、防衛産業をターゲットとしたサイバー攻撃の発生、社会保障と税の一体改革の中で予定されるマイナンバー制度の導入、東日本大震災を機に改めて再認識されたBCP/BCMの重要性、更に地方自治法抜本改正の議論の中で検討されている地方公共団体監査制度の抜本見直しなど、システム監査も関係するホットな話題が次々に出てきています。

また、オリンパス、大王製紙、九州電力やらせメール問題などにおける第三者評価委員会の設置を例に挙げてもなく、システム監査もその一つである“第三者評価”の活用は社会的に定着した感があります。

このような状況の中、システム監査（システム監査人）の果たすべき役割は、情報社会の一層の進展と相俟って、益々大きくなると予想されます。

システム監査関連の団体はいろいろありますが、全国に7つの支部を持ち、全国レベルで組織的にシステム監査の普及、促進に取り組んでいる組織は当協会の他にはありません。

当協会は、システム監査の普及、促進に、引続き先頭に立ってその役割を果たして行かなければならないと考えています。

本年2月に開催された第11期総会で、今後の協会運営の方向性として、以下の3点を挙げました。

- (1) システム監査の普及、促進活動の一層の推進
- (2) 会員サービスの一層の充実
- (3) 協会財政の一層の健全化

今後、これらを具体的に進めていく上では、その前提として会員の皆様に協会活動情報を更に積極的に提供、報告し、会員の皆様のご支援を頂くことが欠かせないと思っています。

引続き、協会活動にご理解、ご協力を、どうぞよろしくお願い致します。

【 会報 Award 受賞作品のご紹介 】

2010 年 めだか賞の受賞作品より（全文は、掲載号の会報記事を確認ください）

めだか （システム監査人のコラム）

SAAJ 会報 2010.09

【 失敗を通して学んだシステム監査の勘所 】

私は、約19年、さまざまなテーマ・対象でシステム監査を行ってきました。1つ1つがそれぞれに思い出深い経験であり、数を重ねるたびに少しずつですが成長している実感があります。

経験の浅いときは会社で作った手引書や市販本を参考にしながら、試行錯誤でやってきましたが、いろいろと失敗をしました。そうしたとき、自分なりに考えて工夫し、また、先輩にアドバイスをもらったりしながら、自分のノウハウを高めてきました。今回は、失敗を通して学んだシステム監査の勘所のいくつかを、ご紹介いたします。

1. 玉虫色の表現のシステム監査報告書を経営者は期待していない

システム監査を実施した結果は、システム監査報告書にまとめて報告します。システム監査報告書では、監査対象の実態が、監査基準に照らしてどのような水準にあるかを、監査人の評価として記載します。私がシステム監査を始めて間もない頃、お客様のシステムの監査でしたので、歯切れの悪い、玉虫色の評価を記載してしまいました。「...一部に問題と思われる状況が見受けられ、必ずしも適正な水準にあるとはいえない。」のような。報告会でお客様の経営者から、次のように言われました。これはどういう評価なのか、改善が必須なのか、改善を検討すべきなのか、改善は必要なのか、はっきり言って欲しい。お金を払ってシステム監査を頼んでいるのは、問題をはっきりさせたいからだ。私が、経営者がシステム監査に期待していることを理解できていなかったのです。

それ以来、私は、評価は客観的に、明瞭に、端的に記述するように注意しています。3段階評価のどの水準にあるのかを明記し、その理由を、具体的証拠をもって説明するようにしました。

システム監査人は、職業柄か、手堅い人になる仕事のようにです。

その集まりの、当協会は、周りから見ると堅物の集団に見えることでしょう。

めだかの原稿収集を始めて、気づいたことに、原稿の募集案内をしても、なかなか集まらない。

かといって、催促もしたくないわけで、自然と発表原稿が集まる、ということを期待していたわけです。

うるさ型の監査人は多いが、手堅いというのは、手が、指先が硬くて、なかなか原稿を作成するのは面倒に感じる人が多いのでしょうか。

めだか （システム監査人のコラム）

SAAJ 会報 2010.12

【 システム監査の専門家 】

お読みになった方もおられると思われるが、「システム監査の専門家」ということについて、大変考えさせられる記事を発見した。それは、当方にとって、システム監査の大先輩にあたる方がお書きになられた「専門家の専門性放棄」というタイトルの意見である。お言葉によれば、およそ次の通りである。

日本の社会で大変心配なことが起こっている。それは専門家の専門性放棄である。たとえば、裁判員制度を導入した司法の世界、内部統制の評価を極力企業の自主判断、自己対応として自己申告の報告に任せようとしている会計監査の世界、更にはスポーツ選手や芸能人を引っ張り出した政治の世界などなど、それぞれ専門性が求められる分野で、専門性の放棄が起きている。そして、情報セキュリティについても、「（担当者が）企業においてセキュリティを推進したいと思っても、トップが考え方を変えない限り何時まで経ってもセキュリティは改善されない」との話があるが、組織の中で、必要なセキュリティレベルを提案し実現するのは、専門家である担当者の責務であり、トップの所為にして専門家としての能力を発揮できていない。経営者を説得できないのは、担当者の専門性の不足または熱意不足ではないか。専門家は専門性を発揮してこそ、専門家なのである・・・。

2011年 めだか賞の受賞作品より（全文は、掲載号の会報記事を確認ください）

Apr. 2011

日本システム監査人協会 会報

めだか 【 減災:事業継続監査の観点から 】

投稿

東北関東大震災および原発事故の影響で、改めて減災の観点から事業継続の有効性が問われています。

今回の被災は規模や範囲において未曾有のものであり、影響の大きさや復興にかかるエネルギーの大きさは図り知れません。できるだけ早く、国家レベルでの復興計画の策定とその推進体制が作られるよう切望するところです。

企業や個人にとっても、今回の震災で、当たり前の日常が意外に脆弱な基盤に立っていることを再認識させられました。特に首都圏においては、社会的な重要インフラ・サービスである電力供給や通信途絶の不安が顕在化することに伴い、この地域での事業継続リスクを洗い直す必要はないか、反省を迫られています。

社会的なインフラ・サービスの特色として、従来から「相互依存性」の問題が指摘されています。

会員相互の意見交換、情報発信の手法として、公開された意見表明の機会なのですが。

2012 年は、より積極的な投稿を期待しています。

左記にめだか賞に選ばれた生地の冒頭 1/3 を抜粋したのですが、どのような内容だったか、ご記憶あるでしょうか。

(会報編集部)

研究会、セミナー開催報告、支部報告

■【量子コンピュータの概要と研究・開発の状況（第169回月例研参加記録）】

会員 No.1750 舘岡 均

日時:平成23年12月21日(水) 18:30~20:00

場所:総評会館

講演テーマ:量子コンピュータの概要と研究・開発の状況

講師:NTT 物性科学基礎研究所 量子光物性研究部長 都倉 康弘氏

参加者:76名

<講演骨子>

現代の情報処理に用いられている電気信号や光信号は、電子及び光子の古典的な性質、例えば電流値や光強度、光の位相等、を活用したものです。しかし、電子も光子も素粒子であり、20世紀初頭に確立した量子力学に支配されています。最近この量子力学の性質をうまく活用した全く新しい情報処理である、量子情報処理が提案され、(スーパーコンピュータを含む)従来の古典コンピュータをはるかにしのぐ計算能力を持つと予想される量子コンピュータに注目が集まっています。本講演ではこの「夢のコンピュータ」の原理と世界中の研究・開発の現状と今後の見通しをできるだけ分かりやすく解説いたします。

(都倉様から頂いた講演骨子)

<講演概要>

高度に専門的な量子力学、暗号、量子コンピュータのことを、基礎から、やさしく噛み砕いて、講演をしていただきました。目次は次の通りです。

- | | | |
|----|-------------|---------------------|
| 目次 | 1. 量子力学の不思議 | 2. 現代暗号と量子暗号 |
| | ー波の干渉 | 3. 量子コンピュータの原理とパワー |
| | ー重ね合わせ | 4. 量子コンピュータ研究・開発の状況 |
| | ー量子もつれ | 5. まとめ |

<講演内容>

あまりにも高度で専門的なテーマであり、従来の月例会報告のように解説することは困難なため、講演された内容の説明資料の項目／キーワードを示し、最後に報告者所感を記述します。

1. 量子力学の不思議

量子って何?、量子力学の世界、

光=電磁波について、電磁波の基本、ヤングのダブルスリット干渉実験、干渉の様子、

光は波、干渉する理由は、モノの波の幅?、冷たい原子は干渉する、コヒーレンス、コヒーレンスの重要性

光の粒子性、一個の粒子は干渉する?、一つのスリットでは、二つのスリット、沢山の粒子の結果を集めると

偏向のしくみ、偏光フィルタ、垂直と水平の偏光フィルタ2枚では、斜めの偏光フィルタでは、

各光子が特定の偏光を持つと、光子は「特定」の偏光を持っていない、重ね合わせ

もつれた二つの量子、量子テレポーテーション

2. 現代暗号と量子暗号

通信と暗号、
暗号の説明の前に算数のおさらい、
暗号の仕組み、
公開鍵暗号、
素因数分解は難しい、
難しさは指数関数的、
現代の暗号通信、
絶対安全な暗号？
開くと消えてしまう情報なら安全？

量子暗号(量子鍵配送)とは、
量子暗号(量子鍵配送)の仕組み、
具体的な手続き、
東京 QKD ネットワーク、
UQCC2010 におけるライブデモンストレーション、
量子もつれの不思議な性質、
量子もつれを使えば量子暗号ができる、
量子もつれ光子対光源の例、
100km光ファイバーの量子暗号、
量子テレポーテーションを用いた量子中継、

3. 量子コンピュータの原理とパワー

「計算できる」とはどういうことか？

(定義一) 計算機が解を見つけて停止すること。

かけ算(容易)と素因数分解(困難)

(定義二) 問題のサイズの増大に対し計算ステップ数が高々その多項式程度にしか増えないこと。

(定義三) 現実的な計算ステップを数を超えない。

量子情報処理が注目される背景、
量子コンピュータ、
ムーアの法則、
ムーアの法則の終焉、
情報の最小単位、
逐次計算と並列計算、
量子力学的 逐次計算、

超並列の源: 重ね合わせ、
超並列性 — 迷路問題を例に — 、

アルゴリズムの説明、
量子フーリエ変換、
Grover のデータ探索アルゴリズム、
アルゴリズムの説明、
データ数が多くなると、
Shor の素因数分解アルゴリズム、

4. 量子コンピュータ研究・開発の状況

物理システム開発の状況、
その一例として: 人工原子、
電子数を一個単位で自由に操る技術、
人工原子を二つならべて→人工分子、
量子コンピュータ: 将来システム実現に向けて、

5. まとめ

まとめにかえて、R.P.Feynman のノーベル賞受賞時の言葉の引用

It is my task to convince you not to turn away because you don't understand it.

...

<報告者所感>

本講演は、専門的で、難解なテーマでしたが、量子コンピュータへの高い関心からか、師走にかかわらず、多くの方々が参加されました。講師は専門家ですが、目線を下げて丁寧な解説をして下さりました。拝聴して、講演内容で印象的であった個所を、簡単に述べて所感とします。

最初に、量子情報処理が注目された背景には、現代の情報セキュリティは、素因数分解が「解けない問題」であることを前提としていたが、1994 年に「量子コンピューティングで素因数が解ける」ことが示され、その後、1997 年には「量子暗号は量子コンピューティングでも破れない」ことが示された、等があるようです。

その量子コンピュータは、異なる分野の科学が融合した新しい分野であり、量子情報科学は情報工学／計算機科学と量子力学の学際的研究を必要とし、量子ネットワーク、量子ナノエレクトロニクス、量子暗号、量子数学、量子生物、量子化学、量子光学、材料工学などが柱としてあるようです。

これまでの古典コンピュータ(従来のコンピュータ)と量子コンピュータを比較すると、量子コンピュータは想像を絶する桁違いの性能を有します。

具体的には、これまでの古典コンピュータはビット(0 または1)が単位であり、レジスターとして、 n ビットで表わされるのは、2 の n 乗個の情報のうちの1個である。多数の計算を同時に行うには、分散コンピューティング、並列計算で行っている。

一方、量子コンピュータは、量子ビットが単位で、1ビットにつき0と1が確率的に重ね合わさっている。量子レジスターとして、 n 量子ビットで、2 の n 乗個の情報の組み合わせを、重ね合わせで表現できる。多数の計算を、“重ね合わせ”、で行う量子コンピュータは古典コンピュータでは実現できない超並列処理を実現できる。

たとえば、30個の粒子を使用すると、全世界の総人口と等しいくらいの入力値を同時に表わせて、計算ができ、140個の粒子を使用すると、地球を構成する全原子数に等しいくらいの入力値を同時に表わせて計算ができるようです。まさしく想像を絶する性能であり、実現された場合には、科学の発展へ大きく貢献し、大変革をもたらすと思われます。

さらに、量子コンピュータの将来システムは、量子コンピュータクラウドとして、社会情報(サービス情報)、知識情報(刊行物データベース)、環境知能(センサネットワーク)、最先端科学(創薬、宇宙シミュレーション)、人間情報(ライフログ、ヘルスケア)等に活用されると期待されています。

しかし、量子コンピュータの課題としては、作成が極めて困難(ハードウェア)、デコヒーレンスに弱い(ハードウェア)、アルゴリズム不足(ソフトウェア)があります。量子コンピュータの利点としては、大規模情報の並行処理、低消費電力、科学の発展への大きな貢献、等があるとされています。

これらは、講演内容の一部でしたが、量子コンピュータの実現は 50 年後くらいという予想もあり、人類の将来において多大に貢献することは確かであり、明るい夢の一つであり、今後の発展の推移に関心を持って行きたいと思います。

以上

事務局からのお知らせ【会員情報の変更】

2012.3.8

- § 会員は、ご自分の登録情報を確認、変更するためには、協会ホームページから会員サイトにログインします。

URL : https://www.saaj.or.jp/members_site/KaiinStart

会員ログイン画面

ログインID	
ログインパスワード	

[パスワードを忘れた方](#)

☆ ログインIDがわからない会員の方は、
[お問い合わせ画面](#)から事務局宛にお問い合わせください。

- § パスワードを忘れた方は、以下のページに進んでください。

パスワードを忘れた方

ログインID	
メールアドレス	
郵便番号	-

☆ 「メールアドレス」と「郵便番号」は会員情報の「連絡・請求先」に登録されているデータを入力してください。
☆ 入力されたメールアドレス宛に、仮パスワードを送信しますので、会員ログイン画面から、仮パスワードでログインいただきその後、任意のパスワード(英数8桁～16桁)に変更してください。

- § 会員サイトでは、理事会議事録の閲覧などができます。

会員サイトトップ 会員情報変更 パスワード変更 会員情報変更 問合せ FAQ参照 資格申請 セミナー受講履歴確認 資格更新手続き	警告掲載領域 ● お知らせ 2011/07/28 事務局Aより 【平成23年7月度理事会議事録】 平成23年7月度理事会議事録を掲載します。 参照ファイルはこちら 2011/06/20 事務局Aより 【平成23年6月度理事会議事録】 H23/6/9理事会議事録を掲載します。
--	--

§ 会員情報変更画面で、会費納入日やCSA/ASA更新日の確認などができます。
(入会年月日は工事中で、表示されない場合があります。)
この画面で、住所変更、所属変更、メールアドレスの変更などができます。

会員番号		
入会年月日		
会費納入日		
CSA/ASA認定番号		
CSA/ASA更新日		
氏名	漢字	(姓) (名)
	カナ	全角カタカナで入力してください。 (姓) (名)
生年月日	☐ 明治 ☐ 大正 ☒ 昭和 ☐ 平成	年 月 日 生まれ
所属支部	☐ 北海道 ☐ 東北 ☐ 北信越 ☐ 中部 ☒ 関東 州	
紹介会員	会員番号	氏名
連絡・請求先	☐ 勤務先 ☒ 自宅	
勤務先	住所	〒 - 【住所検索】
		都道府県・市町村区・町名:

以上

(SAAJ事務局)

会報編集部からのお知らせ

1. 会報 2010 / 2011 アワード開催 受賞者報告
2. 会報への投稿記事募集
3. コメントを投稿される方へ

■□■ 会報 2010/2011 アワードは、次の方々が受賞されました。(()内は掲載月と受賞者)
おめでとうございます。また、記事投稿を通じて、会報へのご協力、ありがとうございます。
(全文は、掲載号の会報記事を確認ください)

●2010 アワード(会員の投票による選出)

IT 分野の会計検査 (2010.5 細野浩一郎さん)
失敗を通して学んだシステム監査の勘所 (2010.9 小野修一さん)
システム監査の専門家 (2010.12 片岡学さん)

●2011 アワード(会員の投票による選出)

減災:事業継続監査の観点から (2011.4 大石正人さん)
東日本大震災を体験して (2011.4 高橋典子さん)
保証業務に係る調査研究と保証型システム監査の一考察 (2011 年に連載 榎本吉伸さん)

□■ 2. 会報への投稿を募集

会員の皆様からの、投稿を募集しております。分類は次の通りです。

1. めだか (Word の投稿用テンプレートを利用してください。会報サイトからダウンロードできます)
2. 会員投稿 (Word の投稿用テンプレートを利用してください)
3. 会報投稿論文 (論文投稿規程があります)

これらは、いつでも募集しております。気楽に投稿ください。

特に新しく会員となられた方(個人、法人)は、システム監査への想いやこれまで活動されてきた内容で、システム監査にとどまらず、IT 化社会の健全な発展を応援できるような内容であれば歓迎いたします。

次の投稿用アドレスに、テキスト文章を直接送信、または Word ファイルで添付していただくだけです。

投稿用アドレス:saa-j-kaihoh ☆ yahoogroups.jp (☆は投稿時には@に変換してください)

会報編集部では、電子書籍、電子出版、ネット集客、ネット販売など、電子化を背景にしたビジネス形態とシステム監査手法について研修会、ワークショップを計画しています。研修の詳細は後日案内します。

□■ 3. コメントを投稿される方へ

気に入った記事があったら、直接、その場所にコメントを記入できます。著者、投稿者と意見交換できます。コメント記入、投稿は、気になった記事の下部コメント欄に直接入力し、投稿ボタンをクリックするだけです。動画でも紹介しますので、参考にしてください。

(<http://www.skansanin.com/saaj/> のサイドバー目次より、「コメントを投稿される方へ」)

2月に開催された定時総会で、参加された会員から、次のような意見が出されておりました。

1. 会員からの意見を発表できる場が欲しい。
2. 西日本地区の交流会は、県をまたぐ意見交換の場として、有益である。
掲示板のように、所属する支部という枠を超えて、意見交換できる場はないものか。

たとえば、この会報掲示板は、コメントという機能を活用して、意見交換ができます。

会員だけでなく、非会員の方、業務改革や経費削減に関心を持つ方にも、お役に立てると思います。

NPO や公的機関で、一般からも投稿できるサイトを運用している組織は多くないでしょう。

[お問い合わせ]を利用した意見の投稿も可能です。(公開はされずに、会報編集部に直接投函できます)

もちろん、会報向けの投稿も、いつでも門戸を開放しています。

ぜひ、このような小さな場所のコメントが、仲間の共感をよび、組織内部の改革、企業全体の改革、地域への改革モデルの提供として、お役に立てることを祈念しています。

会員限定記事

【本部・理事会議事録】(会員サイトから閲覧ください。パスワードが必要です)

=====

■発行: NPO 法人 日本システム監査人協会 会報編集部

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-8-8共同ビル6F

■ご質問は、下記のお問い合わせフォームよりお願いします。

【お問い合わせ】 <http://www.saa.or.jp/toiawase/>

■送付停止は、購読申請・解除フォームに申し込んでください。

【送付停止】 <http://www.skansanin.com/saaj/>

Copyright(C)2012、NPO 法人 日本システム監査人協会

掲載記事の転載は自由ですが、内容は改変せず、出典を明記していただくようお願いします。

■□■SAAJ会報担当

編集: 竹下和孝、仲 厚吉、安部晃生、成 楽秀、桜井由美子、清水恵子、山田 隆、片岡 学、

木村陽一、藤野明夫 投稿用アドレス: saa-kaihoh@yahoo.co.jp (☆は安全対策)